

(別紙様式3)

令和3年3月31日

## 研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 宮城県仙台市青葉区本町3-8-1  
管理機関名 宮城県教育委員会  
代表者名 教育長 伊東 昭代

令和2年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

### 記

#### 1 事業の実施期間

令和2年4月10日(契約締結日)～ 令和3年3月31日

#### 2 指定校名・類型

学校名 宮城県石巻西高等学校  
学校長名 菅野 定行  
類型 地域魅力化型

#### 3 研究開発名 震災を乗り越え持続可能な未来を創造する人材育成プログラム

#### 4 研究開発概要

研究開発2年目となる今年度も「確かな学力」をより確実なものにするために地域課題を理解し、課題解決に向けた研究に学校と地域が協働する取組を推進しつつ、教科・科目の授業改善に取り組んできた。このような取組を推進するため、石巻専修大学、公益社団法人石巻高等教育事業団に加え、地域課題探究型インターンシップなどで協力体制にある地域の事業所などとの連携を強化した。従来の当該校の教育活動と本事業を連動させるために、カリキュラムの再構築を行い「社会に開かれた教育課程」を展開することで教育の質の向上を図る。具体には、地域人材を活用した協働的な取組、地域課題を理解する学習やそれらの解決に向けた具体の取組として、「総合的な探究(学習)の時間」を中心に自己理解・社会理解講座、地域理解講座、SDGs地域課題研究などを計画してきた。新型コロナウイルス感染症に伴う校外活動の制限などにより十分な活動ができなかった内容もあるが、当該校の教職員が課題意識を持ち主体的に取り組んだ結果、概ね実施することができている。

さらに、平成31年4月文部科学省提出資料「高校と地域づくりについて」で取り上げられている「生徒が学び成長する環境」（＝学びの土壌）づくりという知見を関連させながら、地域との交流・連携活動を発展させることで、地域貢献人材を育成できる研究開発と普及を図り、被災地の復興・発展の担い手、持続可能な社会を創造する人材の育成に結びつけている。

5 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設している ・ 開設していない
- ・教育課程の特例の活用 活用している ・ 活用していない

将来的に圏域内の他校でも本研究開発の様々な取組を導入できるよう特例を活用しない教育課程としている。

6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
吉岡 敏明	東北大学大学院環境科学研究科 教授	学識経験者
佐々木 秀之	宮城大学事業構想学群 准教授	学識経験者
橋本 孝一	(株)橋本道路 社長 (東松島市商工会会長)	地元経済界有識者
熱海 英俊	石巻商工信用組合 常勤理事	地元経済界有識者

第1回運営指導委員会（7月実施）において、当該校の生徒による今年度の取組説明とカリキュラム開発等専門家による事業説明に対して、目的・目標の実現に向けた実践かどうかの検証や改善の方向性の提言などが行われた。

第2回運営指導委員会（1月実施）では、今年度の事業に沿った研究開発内容を地域へ発信する発表会と兼ねて実施し、次年度に向けた改善の指導を受けている。

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者名
宮城県教育委員会（管理機関）	伊東 昭代
宮城県石巻西高等学校	菅野 定行
石巻専修大学	尾池 守
公益社団法人石巻地域高等教育事業団（石巻市，東松島市，女川町，圏域内県立学校）	亀山 紘
一般社団法人 ISHINOMAKI2.0	松村 豪太

宮城県教育委員会が管理機関となり、地域課題の解決など探究的な学びをとおして、未来を切り拓くために必要な資質・能力を身に付け、地域への課題意識や貢献意識を持ち、将来、地域を支える人材の育成のために、市町村・高等教育機関・産業界などが協働するために、上記の団体とコンソーシアムを構成している。

前年度と比べ、新型コロナウイルス感染症の影響により構成団体及び地域関係者の協力を得る機会が減少してしまっていたが、「地域課題探究型インターンシップ」は33事業所の受入に及ぶ。このことから、地域社会から期待されている事業であることを再認識し、最終年

度も継続して地域社会に貢献できる人材育成に努めていきたい。

情報共有、成果普及という位置づけであった1年目のコンソーシアムの体制を振り返り、地域課題を理解し、課題解決に向けた取組、「持続可能な地域未来の創造」という共通の目的に向かうといった体制づくりを働きかけていくことで、地域を支える人材育成のための協力体制を構築しつつある。

具体には、地域の支援を受けて行う職業人インタビュー「ミライブラリー」による職業理解だけでなく、地域の職場環境を通して魅力を発見する機会を得ている。他にも、地域の事業所に生徒を送り出す「地域課題探究型インターンシップ」や石巻市の観光誘致事業と連携した「街QUEST」などから地域の実態及び地域が抱える課題の理解を深め、課題解決のための探究活動を行い、最終的には課題解決の提言・実践を行うことで地域へ踏み出す取組を行っている。

#### 8 カリキュラム開発専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	高橋 郁雄	石巻専修大学 事務部 部長	無給
	菊池 広人	いわて NPO-NET サポート事務局長	無給
	永野 慎一	東松島市総務部地域創生推進室 次長	無給
海外交流アドバイザー	該当者なし		
地域協働学習実施支援員	斉藤 誠太郎	一般社団法人 ISHINOMAKI2.0 理事・いしのまき学校事業担当	

令和2年2月に行われた「令和元年度石巻地区連携推進コンソーシアム事業報告会」などにおいて、行政・大学・高校の構成団体がそれぞれ成果の発表の場を設け、学校教育に関わる部分は石巻西高校で研究開発を行い、コンソーシアムを介してその成果を圏域内外の他校へ普及していくことが確認され、関係者間で将来の地域ビジョンについて情報共有を行っている。

コンソーシアムの構成組織である地元の自治体・大学などからカリキュラム開発等専門家を招き、本事業を円滑に推進することで、取組の活性化を行っている。指定した人材及び雇用形態については上記のとおりである。

なお、地域協働学習実施支援員については、申請当初、管理機関である宮城県教育委員会の支援員制度の利用を計画していたが、今年度も配置が叶わずに ISHINOMAKI2.0 の職員に対応願っている。

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
管理機関訪問		1回		1回				1回	1回	1回		

(2) 実績の説明

①管理機関による事業の管理方法

運営指導委員会の機会などにおいて、当該校の目的・目標の実現に向けた実践かどうかの検証や改善の方向性などに加え、事業に沿った研究開発計画の内容改善を指導している。

また、管理機関の指導主事が5月、11月、12月に訪問し、本事業についての指導及び助言を行っている。

②管理機関による取組

国費に上乗せした独自の支援や取組としては、運営指導委員の謝金及び交通費などの支援を行っている。しかし、継続的な取組を行うために教員などの人事面における配慮などは行っていない。事業終了後の自走を見据えた取組は、当該校の推進体制や予算などを適宜、管理・監督しつつ、事業終了後の継続の在り方を支援していく予定である。このことは、令和元年7月に行われたコンソーシアムの締結式において、高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書などにおいて、管理機関として関係各所との連携を深めることを確認している。

10 研究開発の実績

(1) 実施日程（臨時休業期間後に再編した内容）

1 学年

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
自己理解講座			1回	2回							2回	
国際理解講演会						1回			1回			
防災体験学習				1回					1回			
社会理解講座				1回	1回	2回						
職業人インタビュー							5回					
インターンシップ								3回	5回	2回		

2 学年

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国際理解講演会						1回			1回			
防災体験学習				1回					1回			
地域理解講座				2回	2回	2回	4回	1回	1回			
課題解決学習								2回	3回	2回	2回	

3 学年

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国際理解講演会						1回			1回			
防災体験学習				1回					1回			
地域課題研究			3回	2回	1回	3回	4回	3回	3回			

(2) 実績の説明

①研究開発の内容や地域課題研究の内容について

【1 学年・総合的な探究の時間】

自己理解講座，国際理解講演会，防災体験学習，社会理解講座，職業人インタビュー及び地域課題探究型インターンシップ（職業理解講座）などをおして，地域社会と関わりながら，勤労観・職業観や主体的に探究する資質や能力を身に付ける。

【2 学年・総合的な探究の時間】

国際理解講演会，防災体験学習，地域理解講座（街QUEST）及び課題解決学習などをおして，地域社会と積極的に関わりながら，地域の課題に対して主体的に探究する資質や能力を身に付ける。今年度は予定していた街QUESTに代わり，石巻市の観光開発に関する取組を実施している。

【3 学年・総合的な学習の時間】（先行実施）

国際理解講演会，防災体験学習及びSDGs地域課題研究をおして，地域社会と関わりながら，地域課題に対して主体的に探究する資質や能力を身に付ける。

【教科・科目】

教科・科目の学習と「総合的な探究（学習）の時間」の学習とを関連づけて，本事業を円滑に進めていくためにカリキュラムの再構築を行うことを目的に，体系的な教育課程を構築するための流れを踏まえた取組を実施していく。

名古屋市立工業高等学校の授業実践などを参考に「防災教育」について教科横断的な取組を展開し、「現代社会」、学校設定科目「地理探究」、「環境と科学」などの授業において、地形図を利用して、三陸の海岸線や等高線を比較することで、地形ごとに津波の浸水被害が違うことを導入とし、「数学」の統計に関する「箱ひげ図」の学習内容と関連づけて教科横断的に展開する取組などを教科間で模索している。

「社会と情報」では、総合的な探究の時間との関連から、問題解決の基本となる手法として、PDCAサイクルや問題解決の6STEPといった方法やブレインストーミングとKJ法の組み合わせなど、情報の整理や考えを可視化し、解決すべき問題について学ぶ機会としている。

また、文部科学省が資質・能力の育成のために、教科等横断的な視点をもった授業構想、授業実践の必要性を示している点から、教科等横断的な視点をもった授業構想、授業実践により、生徒は、各教科などで身に付けた資質・能力を別々のものとするのではなく、つながりのあるものとして構成し直すことにより、社会で生きていく際に活用できる力と結びつけている。

このことに加えて、京都学園中学高等学校の実践事例などを参考にした探究活動を含めた授業として、コンソーシアムに含まれる東松島市及び石巻市のSDGs未来都市宣言をテーマに取り上げた授業実践を学校の活動全体を通して、SDGsを「自分ごと」として考えるための取組を行う働きかけを行っている。

一例として、「国語総合・古典」で江戸期に賀茂真淵が提唱した『万葉集』の歌風「ますらをぶり」と『古今和歌集』の歌風「たをやめぶり」をふまえ、男はこうあるべき、女はこうすべき、という性別による価値観が現代にも受け継がれているのか、変化しているのかを考察した。クラスを男女混合のグループに分かれ、それぞれに割り振った歌について、新聞記事データベースを用いて「ジェンダー平等」にまつわる課題を探し、根拠・理由・主張の3要素を踏まえ和歌からジェンダーを考えた。

大切にしたいのは、重要なのはまず「知ること」であり「自分ごと」として考えることだと考え、SDGsに関する取組について、生徒たちが「持続可能な開発に寄与している」と実感することは、実際にはそう多くないが、「今学ぶことが、社会に出てから仕事とおして、例えば、製品開発などの際に、SDGsの17の目標に向き合う取組となっていく」ことを生徒に伝えた。

#### 【課外活動】

##### ○地域支援ボランティア活動

希望者による活動。地域の行事補助や震災復興事業補助の活動を実施している。

##### ○地域理解講座(2年)発展フィールドワーク

修学旅行の中止に伴い、石巻市の観光開発と連携して取り組んできた「街QUEST」の発展的フィールドワークを学年行事として実施している。

##### ○SDGs地域課題研究(3年)発展フィールドワーク

「SDGs地域課題研究」の後、さらに発展的な探究活動を希望する生徒が行うフィールドワークという設定。進路決定者などを中心に課題研究で学んだ内容を発展させる形で政策への提言などの発表の場を1月に企画している。

##### ○有志生徒参加事業

昨年度は、地域の高校生を対象とした地域や社会に貢献する人材を育成する「耕人塾」や県の助成を受けた特定非営利活動法人の活動への参加を促してきたが、参加実績がまだまだの状況である。このことを受けて、校内に認定NPO法人カタリバ（女川向学館）職員の協力を得て「マイプロ部」を設置することができた。このことで、意欲的な生徒数名が、マイプロジェクトアワードなどに積極的に関わる機会を持てるようになっていく。

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け（各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間、学校設定教科・科目など）

「探究的な学び」を中核に据えた体制づくりに取り組んだ結果、カリキュラム・マネジメントに関して以下の2点で進展が見られた。

○総合的な探究（学習）の時間で取り組んだ事業の内容と、各教科などの教育内容を相互関係で捉えた教科横断的な学びの視点が生まれはじめ、今年度は、国語科と芸術科による教科横断授業の取組を行った。

○地域課題探究型インターンシップのミッション設定により事業所のアプローチに変化が生じるきっかけとなった。このことで、外部人的資源の活用を進め、学級減に伴う教員定数の減少による業務の縮小・削減への対応・改革への道筋が見えつつある。具体には、教職員の研修に対する意欲の高まりが広がり、結果として、指導力の向上、授業づくりの工夫などが随所に見られるようになっている。

【参考「総合的な探究（学習）の時間の事前学習及び実施例」】

#### 事前学習

希望する生徒を地域課題に取り組む自治体職員や企業人の所へ派遣し、事前学習を実施することで生徒の課題意識が鮮明になり、取組への意欲が向上した。

#### 研究例

東松島市が定めた「2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール」の一つに教育に関する市民満足度（2018年55.3%→2030年60.5%）が挙げられている。実現の一助とするために「マイプロ部」の活動などを通して、地域子どもたちが実践可能な自然・野外体験学習などの具体的手法について研究を行う。そのためには、東松島市の自然環境資源（海洋・森林資源）を理解した上で、その雄大な自然を活かした教育プログラムを冒険教育、自然教育・環境教育、アート、食育などの視点から検討する。教育効果の仮説を立て、実現可能性についての検証を行い、最終的には地域子ども達に向けた持続可能な教育プログラムとして提案を行う。

そのために、今年度は東松島市総務部地方創生SDGs推進室、東松島市社会福祉協議会などの協力を得て、作戦会議（研究テーマを明確にするための個別面談・相談会）を開くなどの取組により今後の研究活動に見通しを持たせることができている。

【参考「学習評価の計画（概要）」】

探究課題の解決を通して育成を目指す資質・能力の他に、自ら学びに向かう力などの伸長の記録を学習支援システム（スタディサプリ）の「活動メモ」を活用し自己評価と結びつけている。このことに加え、ワークシート、レポート、ポスターなどの成果物の内容から取組姿勢や態度を把握し総合的に評価を行っている。特に、当該校職員が県の長期研修制度で研究した「一枚ポートフォリオ」を活用したところ、ワークシートの作成において

改善が見られた。

③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目などにおける学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

外部の人的資源活用による効果を受けて、これからの社会で必要とされる能力を育てるため、知識偏重から資質・能力を育成する授業改善のアプローチは各教科・科目で進展が見えつつある。本事業への取組により、横断的な連携力を十分に発揮し、各教科間の有機的なつながりを深める機会となっている。最終年度に向けて、系統的な発展性、実践的・体験的な学習への取組を意識していくことを校内で確認済みである。

5 ページの【教科・科目】の取組例に加え、国語科と芸術科による洋の東西を比較する文化論に関する横断的な学習や、保健体育科と養護教諭による新型コロナウイルス感染症に関する連携授業が行われている。また、臨時休業期間中のオンラインによる総合的な探究の時間の調査・研究の取組は、教科・科目の垣根を越えた授業計画に反映させているところである。

④成果の普及方法・実績について

当该校で研究開発の進捗管理を行い、計画・方法を体系的・構造的に改善していく仕組みを創り上げるために、成果発表会という位置づけである「まなびフォーラム」による授業改善及び総合的な探究の時間の取組事例などの公開の他に、コンソーシアム及び協力事業所の参加を得て事業ごとに発表会（街Q U E S T 成果発表、地域課題探究型インターンシップ発表など）を開催している。最終的には、最終年度を見据え、代表生徒による研究成果の発表会（生徒探究活動発表会）を1月末に行うなど、定期的な確認や成果の検証・評価などと普及の機会を設定している。また、みやぎ高校生フォーラム、学校便り『西高実況中継』及びホームページ上においてこれまでの取組（成果）を公開している。併せて、高校卒業までに身に付けさせたい資質・能力の育成状況の検証（「学校評価」以外はこれから実施）も行っている。

(3) 研究開発の実施体制について

①地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

当该校の校内組織である「地域協働推進委員会」を月1回ペースで行い、その場にはカリキュラム開発等専門家を加え、学年ごとの事業の企画・進捗管理・成果の検証などを行ってきたことでカリキュラム・マネジメントの推進を図ることができている。

また、運営指導委員をはじめ、カリキュラム開発等専門家には、これまで培ってきた地域協働に関するノウハウを指導・助言いただき、本校の実態に即した形にアレンジを行い、常にプログラムの修正を行う体制を作っている。外部の人的資源の協力を得たことで、教職員の意識改革につながり、指導力の向上、授業づくりの工夫などが随所に見られることなどを基に、令和4年度からの自走につなげていく。

②学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

上記①の記載のとおり、カリキュラム開発等専門家及び地域協働推進委員会が連携して研究開発の大枠を管理している。各プログラムの運営は、担当の委員会が担っている。プログラムを実施する上で課題が生じた場合は、地域協働推進委員会で検討し、必要に応じてカリキュラム開発等専門家の指導・助言を受ける形で支援体制を整えている。

③学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

研究開発の推進には、教職員の丁寧なガイダンスのもと、生徒が自ら考え、自ら判断する中で、豊かな積極性と想像力、課題解決能力を身に付けていくことが求められる。そこで、今年度は専門性の高い外部の人材の協力に加えて、オンラインなどにより他県の本事業の指定校発表会に参加し、知見を高めた。

【オンライン発表会参加状況】

令和2年10月26日 岡山県立和気閑谷高等学校（岡山県教育委員会）

「地域と連携した『高校の魅力化』フォーラム」

令和2年12月14日 島根県立松江東高等学校「MAT SUE探究」成果発表会

令和3年 2月15日 岩手県立大槌高等学校「三陸みらい探究発表会」

## 1.1 目標の進捗状況、成果、評価

前年度に実施した「高校魅力化評価システム」の診断結果からも他の指定校と比較し「地域の人や課題などにじかに触れる機会」などの評価が低く、本校の課題は明確であった。2年目の今年度は、コロナ禍の中で思うような取組とは言えない部分もあったが、主体性、協働性、探究性、社会性の資質・能力を育成する「学びの土壌」づくりを進めることができる程度はできたと考えられる。これらのことを検証すべく、すでに実施済みの「学校評価」に加え、前年度との比較の点から「目標設定シート」を基にした生徒向けアンケートを学習支援サービス（スタディサプリ）により実施している（添付資料「目標設定シート」参照）。

これまでの取組から、地域の人材や資源を活用し、学校と地域とが協働して行う学びを今まで以上に取り入れることが効果的である。また、地域の力を借りて教育活動を体系化することで、地域との対外的な折衝などの教職員の業務をスリム化することで「働き方改革」の推進につなげることができる。加えて、地域連携の取組は従来過疎地域で行われることが多かったことから、広域圏での地域連携事業という全国でもあまり例のない事業を本研究で行う意義は十分にあるはずである。しかし、圏域内の中学校や他の県立高校・大学を巻き込むまでは至っていない。

〈添付資料〉目標設定シート

## 1.2 次年度以降の課題及び改善点

卒業までに身に付けさせたい資質・能力として挙げている3項目を核として必要なカリキュラム・マネジメントの見直しを図る。特に、本事業を実施することで期待できる効果として挙げていた5項目のうち、次の2項目

①地域内の中高大の教育活動をスムーズに接続することができる。

②地域資源や人材を積極的に活用することで、教職員の「働き方改革」も推進できる。  
が初年度の課題及び改善点であった。

コンソーシアムやカリキュラム開発等専門家と協議を重ねながら、事業内容の改善を模索してきたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、フィールドワークなどの校外活動に制約が生じたために十分な活動ではなくなってしまった。また、校内の委員会が効果的に活用されておらず、特定の学年の成功例が他学年に波及させられないなど、学年間の情報共有

が停滞してしまった反省事項もある。

しかし、当該校における本研究の様々な取組は、生徒だけでなく教職員の意欲向上にもつながっており、教職員間の目標・方策・取り組む課題などをあらためて共有し、地域・保護者、そして関係諸機関との連携を図りながら事業を発展させる努力をしている。具体には、事業終了年度までの取組計画の1つとして挙げている到達目標「本事業に参画する地域住民の数」を80名以上にすることなどで、事業終了後の当該校の自走に活かしていきたい。

【担当者】

担当課	宮城県教育庁高校教育課	TEL	022-211-3624
氏名	上園 知明	FAX	022-211-3696
職名	主幹	e-mail	ko-komin@pref.miyagi.lg.jp